

## 令和4年度第1回職業能力開発審議会資料における意見・質問等に対する回答（会議録）

整理番号	委員名	資料番号等	該当箇所	意見・質問等	回答
1	佐藤委員	資料番号：1-1 (1ページ)	1 基本的施策の目標・指標に対する進捗	令和7年度における目標値に対して概ね順調であり引き続き、取り組みを継続して頂けるものと思います。	第11次青森県職業能力開発計画の目標・指標の達成に向けて、各種施策に取り組んでいきます。
2	佐藤委員	資料番号：1-1 (5ページ)	施設・設備等の維持管理費、職員の人件費等の費用が訓練効果に合っていないという指摘を受けかねない状況となっている。	わが国の出生数低下の現状を鑑みれば入校者数の減少は当然の帰結と見ます。訓練を受ける側の県内若年者が青森県の人財であると同時に、訓練をする側である施設職員も青森県の貴重な人財です。貴重な人財である施設職員を活用した青森県の人づくり、環境づくりという視点では、「資料2」に示されたように、訓練科に離職者を対象に加えることは大変よい施策と見ます。加えて、様々な技術分野の知見をもつ施設職員には、各種技能評価機関等での技能検定等の評価認定を行う外部委員としての活躍も期待されることと見ます。例えば、八戸工科学院に追加される溶接施工科の分野では「溶接技能者資格認証・認定制度」があり、青森県内でも公的機関で該当分野の知見をもつ人財が求められているようです。様々な技術分野の知見をもつ施設職員は、青森県の貴重な人財であり、県内での多様な活躍ができるような取り組みにも期待します。	入校者数の減少については、大きな課題としてとらえており、訓練受講者のニーズと企業ニーズを把握し、訓練科の見直しを行っていきます。また、職業訓練指導員の能力を最大限生かせるよう取り組んでいきます。
3	李委員	1-1、1-2	2-(2)-③課題、入校者の状況（令和4年度）	訓練定員を下限まで下げたにもかかわらず入校率が50%を下回っている状況が続いている点について、その原因は、潜在的な志願者が不足しているためなのか、希望する専門とのミスマッチによるものなのか、データとしては把握しているものがあればご教示いただきたいです。	入校率の低下について、具体的なデータとして把握しているものはありませんが、少子化が進む中で、大学進学率が上昇しており、全国の職業能力開発校の応募者数や入校者数も減少していることから、潜在的な志願者が不足しているかと考えています。
4	李委員	1-1、1-2 3-(2)	3-(2)	①「地域における人材ニーズを適切に反映した訓練コースの設定を促進する」具体的な取り組みがあれば、ご紹介いただきたいです。	施設内訓練においては、訓練生の実習先企業や就職先企業からの意見等を踏まえて、令和5年度から既存の訓練内容を見直し、新たなカリキュラムで取り組むこととしています。具体的には、土木施工管理・測量科（現：環境土木工学科）ではドローン測量に関するカリキュラムを強化するなどとしています。また、八戸工科学院においては、八戸地域での製造・建設業の求人倍率が高いことから、離職者を対象とした、溶接施工科を新規開設することとしています。さらに、委託訓練においては、コールセンターの職業訓練を設定する等、地域ニーズを踏まえた訓練設定に取り組んでいきます。

5	河村委員	資料2	訓練科について	県内の自動車整備士の養成校が減少しており、整備士不足が顕著になってきている現状から、青森高等技術専門学校での自動車整備科の訓練科の増設について、お伺いしたい。	各校の訓練科については、県立職業能力開発校の再編の検討に合わせて、企業及び求職者のニーズ等を踏まえ見直しを図ることとしています。
6	大坂委員	資料2	自動車システム工学科について	新技術対応訓練には、電気自動車やハイブリッド車等の整備まで訓練できるのか。今後、電気自動車は増加すると思われます。ハイブリッド車のバッテリーや電気関係の知識も必要となる。将来を見据えた技能習得を強化していただきたい。	「自動車システム工学科」については、令和5年度から「自動車整備科」へ訓練科名称を変更し、一部カリキュラムを強化をすることとしており、ハイブリッド車や電気自動車の整備技術を取り入れるなど、今後にも必要に応じてカリキュラムの見直しを行ってまいります。
7	大坂委員	資料2	環境土木工学科	ドローン測量等、国家資格まで取得できるのか？専門職の育成も大切。	土木施工管理・測量科（現：環境土木工学科）については、土木施工管理技士や測量士の育成を主たる目標としています。ドローンの運転操作については、今年度から国家資格として制度化されましたが、訓練カリキュラムに取り入れていくかどうか、企業及び求職者のニーズ等を踏まえて今後検討していきます。
8	大坂委員	参考資料1 第11次職業能力開発計画 P31	女性には多様な働き方	固定的役割分担意識をなくし、男女問わず個人の能力等によって、働き方を決められる支援が必要。女性が活躍できる場づくりを県でも支援して欲しい。	国等の関係機関の取り組みと連携しつつ、公共職業訓練においても、固定的役割分担の意識にとらわれず、個人の希望や能力に沿った働き方ができるよう取り組んでいきます。
9	山内委員	資料1-1	2(2)③入校者の減少等	訓練校存続の基本である、入校者の減少についてどう認識しているか？	資料1-1の2「県立職業能力開発校の改編について」で示すとおり、入校者の減少は大きな課題としてとらえております。
10	山内委員	資料1-1	11④施設及び一部設備の老朽化	訓練施設の老朽化への今後の対応策は？	施設及び設備の老朽化については、計画的な更新など適切に対応していくこととしていますが、中・長期的な職業能力開発校のあり方や再編も踏まえさらに検討していきます。
11	山内委員	資料2	訓練科の見直し	「土木施工管理・測量科」において、訓練内容充実（ドローン測量等）との記載もありますので、特にドローンは業界のニーズに沿ったカリキュラムで先駆的な技術習得を目指して頂くことを要望します。	土木施工管理・測量科（現：環境土木工学科）については、土木施工管理技士や測量士の育成を主たる目標としています。ドローンの運転操作については、今年度から国家資格として制度化されましたが、訓練カリキュラムに取り入れていくかどうか、企業及び求職者のニーズ等を踏まえて今後検討していきます。

12	山内委員	資料2	訓練科の見直し	<p>自動車システム工学科→自動車整備科に名称変更となっています。イメージとして後退したような感じを受けますが受け止めは？また、ハイブリッド車や電気自動車等の拡大に対する技術者の育成についての現状はどうか？</p>	<p>「自動車システム工学科」から「自動車整備科」への名称変更については、当該訓練科の訓練内容について、入校希望者への「わかりやすさ」を重視したことによるものです。また、当該訓練科では基礎的技術の習得と2級自動車整備士の資格取得を主たる目標としていますが、ハイブリッド車や電気自動車の整備技術を取り入れるなど、今後も必要に応じて科名やカリキュラムの見直しを行っていくこととしています。</p>
13	堤委員	資料1-1	P6.④施設及び一部設備の老朽化	<p>「施設および一部設備の老朽化は魅力度に影響し、減少要因の一つとなっている」とあります。現在、電子部品やシステムは日々進化を遂げているため、この進化に見合った訓練設備の導入をお願いしたい。これにより入校者のモチベーションアップや学校の魅力度アップ、また就職した先で即戦力として実力を発揮できるのではないかと考えます。またそれを見据えた予算を組んでいただきたい。</p>	<p>施設及び設備の老朽化については、計画的な更新など適切に対応していくこととしていますが、中・長期的な職業能力開発校のあり方や再編を踏まえさらに検討していきます。</p>